

# その紙袋 再生でできます

紙袋や包装紙などの「雑がみ」のリサイクル率を上げようと、各地でPR活動が活発になっている。新聞紙や雑誌、段ボール、紙パック以外の再生可能な紙類のことで、ごみの減量化のため、分別収集する自治体は増えた。だが、認知度が低く、回収が進んでいないという。

(崎長敬志)



紙袋や紙箱などの「雑がみ」を使った工作を楽しむ親子連れ(仙台市の「せんだいメディアテーク」で)

仙台市の複合文化施設「せんだいメディアテーク」は昨年から、「ワケあり雑がみ部」という活動をしている。回収箱を設置して集めた不用な紙箱や紙袋、包装紙などを使い、参加者がアート作品を作る。雑がみについて知ってもらうための取り組みだ。

6月中旬には「器に盛られた食べ物」をテーマに工作講座が開かれ、親子連れがお菓子の空き箱やペーパーの紙袋をハサミで加工して、ホットケーキやご当地グルメ「マーボー焼きそば」などの作品を作り上げた。市内の小学6年の女子児童は「紙袋や紙箱が、雑がみと呼ばれていることが何となくわかった」と話す。作品は8月上旬、「仙台七夕まつり」に合わせて施設内に展示し、一般の来館者にもPRする予定。

雑がみは、古紙リサイクル会社などで作る「古紙再生促進センター」(東京)が2005年、古紙の流通のための「古紙標準品質規格」の中に新たに設けた分類

## 「雑がみ」分別進まず…PRに力

類だ。自治体によっては雑紙「その他の紙」などとも表記され、紙箱などにリサイクルされる。

同センターの調査では、雑がみを分別収集する自治体は06年度は5割程度だったが、17年度には82%に上昇。雑がみだけをひもで縛るなどして収集する自治体のほか、雑誌などと一緒に収集してリサイクルする場合もある。

ただ、可燃ごみとして捨ててしまう人は少なくない。

仙台市が16年度に実施した家庭ごみの調査によると、燃えるごみの2割近くを雑がみが占めていた。雑がみの分類をはっきり理解しておらず、どう分別すればいいのかわからない人もいるようです」と同市担当者。このため、PR活動を強化しているという。

広島県東広島市でも昨夏、雑がみ分別のきっかけ作りのため、家庭で出た雑がみの重さを測定し、報告書に記入するイベントを実施。参加者に日本酒など地域の名産品を抽選で贈った。また、市内の保育所に園児の工作用として配布した。

浜松市とNPO法人「エコライフはままつ」(浜松市)は、市内の事業所などに、メモ用紙や封筒に「雑がみとしてリサイクルすることができません」といったメッセージを印刷するよう働きかけている。同市役所のほか、地元信用金庫などが採用している。

同センター事務局長の中村好伸さんは、「ちょっと手間をかけるだけで、雑がみは再生利用できる。普段の暮らしの中で、リサイクルをぜひ意識してほしい」と話す。

### ■雑がみの例

包装紙、紙袋、封筒、はがき、ティッシュなどの紙箱、トイレットペーパーの芯など  
※紙に付いているビニールや粘着テープなどは取り除く。

### ■雑がみとしてリサイクルできない紙類

感熱紙のレシート(再生紙が黒くなる)、線香が入っていた箱(においが移る)、紙コップ(防水加工され溶けない)、はがして広げる「圧着はがき」(樹脂加工され溶けない)  
(古紙再生促進センターの資料を基に作成)

家庭